

京芸

transmit program 2018

ART OSAKA version

Momoko Yoshida

吉田桃子

Yohei Kumano

熊野陽平

Sae Fujita

藤田紗衣

Sayoko Kobayashi

小林紗世子

2018年7月7日(土) - 8日(日)

ホテルグランヴィア大阪 26階 6108・6109号室

会場
ホテルグランヴィア大阪 26階 6108・6109号室
〒530-0001 大阪市北区梅田3-1-1
TEL: 06-6344-1235 (代表)
http://www.granvia-osaka.jp

ART OSAKA
http://www.artosaka.jp

日時
2018年7月7日(土) - 8日(日)
7月7日(土) 11:00-20:00 / 8日(日) 11:00-19:00
(入場はフェア終了の1時間前まで)

観覧料無料
(ただし、ART OSAKA 2018への入場料1,500円が別途必要)

企画
京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

主催
ART OSAKA 実行委員会

協力
京都市立芸術大学
京都市立芸術大学キャリアデザインセンター

後援
京芸友の会

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

@KCUA

Career Design Center
Kyoto City University of Arts

ART OSAKA

自らの距離感を操作しつつ絵画として表現している。出品作品ではテトロンと呼ばれるしなやかで張りのあるポリエステルを画布に用いているのだが、この素材は描かれた画像の浮遊感を際立たせ、吉田自身にとって日常と非日常の混じり合う頭の中にあるイメージを、鑑賞者がより近い形で共有することを可能にする。そしてそれは、ホテルの客室という空間の性質とも呼応していく。

熊野陽平は、既存のルールや統一された規格、その境界線の曖昧さといった日常の中に潜むものへの問題意識を鑑賞者が参加できる形で表現し、作品を介して出会った人たち(間接的な出会いを含む)と連携して考察を進めていくという手法で制作活動を行っている。熊野は@KCUAにて今春開催した「京芸 transmit program 2018」にて「造形物がルールによってかたちづくられること」をテーマにワークショップ「1/1スケール模型としての美術展示」を行った。今回出品される写真作品は、それに着想を得た次なるリサーチに基づくものである。熊野がまさに統一された規格が連続する形で区切られた空間であるホテルの客室で行われるアートフェアにおいて、作品を展示すると同時に販売もするということをどのように考え、「参加者」をどこへ導いていくとするのかは注目に値する。

アトリエが作家にとっての日常的な場所だとすると、そこから非日常空間である展示室に持ち込まれることで、作品は日常的な身体行為の産物ではなく、ある意味で非日常的なものになる。そう考えると、誰にとってもかりそめの居場所で、どの個にも属することはない反面、たとえ全ての備品を撤去したとしても、やはりそれ以外の何物でもないほどの強い個性を持つホテルの客室は、展示空間としては非常に料理しづらい場所である一方で、展示される作品には意外に面白い効果をもたらすのかもしれない。各作家がそのことをどう捉えているかをきちんと見ることが、フェアの中の「企画展」の立ち位置にもつながっていくだろうか、と思索しつつの2年目の取り組みである。

藤田瑞穂
(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA学芸員)

ホテルの客室とは、旅という非日常行為(目的の公私を問わず)の中で「寝る」という日常的で最も無防備かつ私的な行為が可能で、日常と非日常の入り混じる特殊な空間である。「美術作品のある日常空間」をイメージし易いということではしばしばアートフェアの会場に選ばれるこの場所を、日常の延長線上、あるいは非日常のなかに日常を呼び覚ます空間として捉え、そこに展覧作家4人の作品を展示することでそれぞれに浮かび上がってくることについて考えてみる。

小林紗世子は、画面の中を空間と見立て、温度や湿度、光の明暗といった周囲の環境に対する自らの感覚そのものを描いている。例えば自身が快適だと感じる冬には色数が少なく、湿気や高い温度が身体にまとわりつく感覚のある夏には色の要素が増え、画面上に白く残された部分が少なくなるといったように、自らの皮膚感覚が絵を描くという身体行為と密接に関係しているのである。そして小林にとって作品を何らかの場所で展示することは、元の空間とは時と場所を隔てた別の空間との接続を意味する。誰もが日常と非日常とを接続させることのできるホテルの客室空間がその画面の外側に広がる時、小林の絵画は、無機質な展示空間とは異なった接続の仕方を試みることになる。

藤田紗衣は自身による小さなドローイングの数々を素材として、それらを拡大したり反復させたりして元の状態とは違った形で融合させるなど「版」が可能にする解体と再構築を様々な形で試みている。「泊まる」という行為が自らを日常とは違った場所にその身をなじませることを表すのだとすると、それには藤田の試みるイメージの解体と再構築との共通点を見出すことができる。ドローイングという作家自身の日常的行為を非日常的な状態に持ち込む「版」と「ホテル」という場所自体が重なり合い、それを通して見えてくるものもまた作品の中の一つの要素となり得ることを、きっと藤田は楽しんでいるはずだ。

吉田桃子は、好きな音楽を聴いているときに頭の中に浮かんでくる動的イメージを、マケットや人形を用いて再現したシーンを撮影し、自らの思い描いているイメージに近い瞬間を選び取って描くことで、

御挨拶

京都市立芸術大学は、1880年の建学以来、わが国の芸術文化を牽引する数々の優れたアーティストやデザイナー、プロデューサー、教育者らを輩出してきました。そしてその伝統を連続と継いで、現在も、国際的な舞台で活躍する幾多の才能を世に送り出しつづけています。本学で創造活動に励む学生達もまた、芸術文化の蓄積がことのほか厚い京都という土地で、その究められた精神と技法に深く学びながら、そうした燦然たる伝統に新たなページを付け加えるのだという強い意欲と自負心を持って、日夜制作に取り組んでいます。このたびご紹介する4名の新人達は、今後の活躍が大いに期待される気鋭の新進作家です。これからの国内外のアートシーンの一翼を担うであろう彼らの作品から、時代の空気を感じ取っていただければ幸いです。

京都市立芸術大学学長
鷺田清一

ART OSAKA 2018の企画展として、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA企画による、京都市立芸術大学出身の作家たちによるグループ展「京芸 transmit program: ART OSAKA version」を開催いたします。本展は、ART OSAKAと本学がコラボレーションした特別企画であり、これまでも毎年、将来に大いに期待できる若手作家たちを紹介してきました。今年度は、今春ギャラリー@KCUAにおいて開催された、本学を卒業、大学院を修了してから3年以内の若手作家の選抜展である「京芸 transmit program 2018」に出展した、熊野陽平(構想設計)、小林紗世子(日本画)、藤田紗衣(版画)、吉田桃子(油画)の若手作家4名が、二室にわたって作品展示を行います。新進気鋭の作家たちのあふれるパワーを、ぜひこの機会にご覧ください。

Momoko Yoshida

吉田桃子



first "I.U." (部分)

2018
アクリル絵具、テトロン
サイズ可変
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
「京芸 transmit program 2018」
展示風景

first "I.U." (detail)

2018
Acrylic on Tetoron fabric
Dimensions variable
Installation view,
KCUA Transmit Program 2018,
Kyoto City University of Arts
Art Gallery @KCUA

吉田 桃子

1989 兵庫県生まれ
2016 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻油画 修了

主な展覧会

2017 個展「scene UKH ver. 3.1」(京都造形芸術大学ARTZONE/京都)
個展「scene UKH ver. 3」(三菱一号館美術館歴史資料室/東京)
個展「scene UKH ver. 2」(波さがしてっから/京都)
2016 アートアワードトーキョー丸の内2016 (丸ビル マルキューブ/東京)
個展「scene UKH」(galerie 16/京都)
「ウッホッホウホウホアートショー」(波さがしてっから/京都)
2015 神戸美術研究所アトリエKAI OB展「権の会」
(兵庫県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー/兵庫)
「作品中! 2015」(galerie 16/京都)

Yohei Kumano

熊野陽平



京都の郊外 2018

2018
インクジェットプリント、合板
約1200×900 mm (予定)

Suburb of Kyoto 2018

2018
Inkjet print on plywood
Approx. 1200 × 900 mm (TBC)

熊野 陽平

1986 京都府生まれ
2016 京都市立芸術大学大学院
美術研究科修士課程絵画専攻構想設計 修了

主な展覧会

2016 1floor2016「何かの奇遇」(神戸アートビレッジセンター/兵庫)
「みんなみにいくみ・な・み・く エキシビジョン」
(ヒスロム作業場/京都)
「Open Diagram」(元崇仁小学校/京都)
2015 個展「廻り込める運命」(京都市立芸術大学小ギャラリー/京都)
2014 個展「仮説的に、修復する美術」(ASAIR/京都)

Sae Fujita

藤田紗衣



LPSI

2018
シルクスクリーン、紙

LPSI

Silkscreen on paper
W 695 × H 970 mm

—

参考画像 写真: 来田 猛
Photo by Takeru Koroda.
For reference only

藤田 紗衣

1992 京都府生まれ
2015 京都市立芸術大学美術学部版画専攻 卒業
ロイヤル・カレッジ・オブ・アート (短期交換留学)
2017 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程
絵画専攻版画 修了

主な展覧会

2017 still moving 2017「フローとストック」(元崇仁小学校/京都)
2016 「Multiply. それぞれの地点より燐光する視点」
(京都精華大学ギャラリーフロール/京都)
個展「Pinch In, Pinch Out」(gallery make/京都)
「通りぬけフープ」(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA/京都)
「still moving - on the terrace」
(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA/京都)
展覧会プログラム「架設 2015」第二期「龍語の検証」
(京都精華大学/京都)
2015 「PORTO DI STAMPA」
(アートゾーン神楽岡/京都、B-gallery/東京)
ART OSAKA 2015「ARTで目覚める vol. 3」
(ホテルグランヴィア大阪/大阪)
「Thinking Print vol. 4」(京都嵯峨芸術大学/京都)

Sayoko Kobayashi

小林紗世子



スリーアワーズ

2017
岩絵具、水干絵具、膠、
麻紙、木製パネル
W 455 × H 333 mm

Three Hours

2017
Iwa-enogu (mineral pigments),
suihi-enogu (soil pigments),
and nikawa glue on
mashi (hemp paper) and
wooden panel
W 455 × H 333 mm

—

写真: 来田 猛
Photo by Takeru Koroda

小林 紗世子

1989 埼玉県生まれ
2012 京都市立芸術大学美術学部日本画専攻 卒業
2014 京都市立芸術大学大学院美術研究科
修士課程絵画専攻日本画 修了
パリ国立美術高等学校 (短期交換留学)
2017 京都市立芸術大学大学院美術研究科
博士 (後期) 課程日本画領域 修了
神戸芸術工科大学アート・クラフト学科 実習助手

主な展覧会

2017 青春画廊西陣オープン記念展
「open house」(青春画廊 - contemporary
art house Nishijin - /京都)
神戸芸術工科大学アート・クラフト学科企画展
(神戸芸術工科大学ギャラリー・セレンディップ/兵庫)
第4回 続(しょく)「京都 日本画新展」(美術館「えき」KYOTO/京都)
2016 碧い石見の芸術祭2016「第1回石本正日本画大賞展」
(三隅中央会館/島根)
2014 第1回 続(しょく)「京都 日本画新展」(美術館「えき」KYOTO/京都)
2013 Cumin Project「Little Melodies」展
(ホテルアンテルーム京都 GALLERY9.5/京都)